

チェック!

# 鶏舎の衛生・飼育管理を見直し季節の変化に備える



今回のテーマは  
鶏の呼吸器病の  
原因と対策  
についてです。

毎日暑い日が続いています。ジーンもかなり夏バテ気味ですが、皆さまが飼養している家畜の体調はいかがでしょう?

これから秋口を迎え過ごしやすい季節となる一方、朝夕の寒暖の差が気になる時期です。さらに、冬になれば畜舎内の保温と換気のバランスが取りづらくなり、結果として呼吸器病も発生しやすくなります。

今回は鶏の重要な呼吸器病の1つであるマイコプラズマ・ガリセプチカム（以下 MG）感染症の対策と、冬場に向けた取り組みの再点検についてご紹介します。

## ● MG 感染症の原因と野外事例

MG 感染症は、MG によって引き起こされる比較的伝染性の強い慢性呼吸器病で、他の呼吸器病原体（例：\* 伝染性気管支炎（IB）ウイルスなど）との混合感染や換気不良、アンモニアガス濃度の上昇、ほこりの増加などの飼育環境の悪化によって発症し、採卵鶏では産卵低下を引き起こすことが知られています。

対策としては、育成段階での的確なワクチン接種や飼育管理の改善など、一般的な衛生管理の励行があげられます。注意したいのは、ワクチンを接種したら終わりではないことです。

ジーンがお邪魔している農場でも、定期検査の結果、冬場に MG の幾何平均抗体価（GM 値）が夏場より高くなり、鶏群内での MG 感染症が起こっていると考えられる事例がありました（表 1）。農場での管理状況を

確認してみると、鶏舎内温度を保つためにいつもより換気を抑え、鶏舎の空気の入れ換えができていないとのこと。季節の変わり目には飼育管理面の再点検も必要だと考えさせられる事例でした。

## ● 冬場に向けて飼育環境の再点検を

夏場は暑熱対策として、鶏舎の換気量を増やす、細霧の実施など、鶏の体感温度を下げるさまざまな取り組みをされていると思います。しかし、秋から冬を迎え外気温が低下していきますので、鶏にとって快適な環境を見直す必要があります。下記に主な注意点を列記すると

- ① 鶏舎内の温度（最高・最低）・湿度は定期的にチェックをしているか
- ② 鶏舎内外の温度差を考慮して換気量を調節しているか
- ③ 細霧を実施している場合の間隔、時間等は季節に合わせて調節しているか
- ④ カーテン設置鶏舎ではカーテン開閉での換気が可能か（カーテンの破れ、巻き取り機器の故障等はないか）
- ⑤ 入気・排気設備に問題はないか（ウィンドウレス鶏舎）などがあげられます。また、鶏から排泄された MG は外界で数日生存できることが実験的に確認されています。環境中に隠れている病原体の量を減らすためにも、鶏舎内の定期的な清掃が欠かせません。

これから迎える寒い時期、感染症を防ぐためにも、早い段階から鶏舎の機器類などを再点検し、確実なワクチン接種、鶏舎の定期的な清掃を心がけましょう。

表 1: ある農場における MG-HI GM 値の推移（7月と12月）

採血時期	①群		②群		③群		④群	
	日齢	MG-HI (GM)	日齢	MG-HI (GM)	日齢	MG-HI (GM)	日齢	MG-HI (GM)
7月	150	10	314	21.4	252	10.7	362	10
12月	303	50.4	467	43.2	405	20	515	50.4

※季節に合わせた管理の変更以外、農場で飼育管理・衛生管理に大きな変更はない。